

学びの風便り

リーディングスクール通信 35 R6.12.30

発行：松本市教育委員会 教育研修センター



特集！学びの改革のあゆみ 寿小学校・梓川中学校

寿小学校

今年度、寿小学校では将来の不確実性の時代に対応できる「自律した学び手」を育成するため、「子どもに委ねる授業づくり」を重視し、「さあ、やってみよう！」を合言葉に全学年で単元内自由進度学習に挑戦してきました。

そして、令和6年12月13日には、今年度2回目となる公開研究会を開催。50名以上の参加者が子どもたちの学びの姿を見守り、単元内自由進度学習について活発に議論を交わしました。

寿小がこれまで大切にしてきたこと

自律的な学びを促進するため「自分でやってみたい」「こうしてみたい」という意欲が自然に湧く学習環境づくりに力を注いできました。そして、その環境が資質・能力の育成に効果的であるか、また、子どもたちの「学びたい」という気持ちを引き出せるかについて検討を重ねてきました。

公開授業当日

公開授業では、1年生と3年生が、2教科同時進行の単元内自由進度学習に取り組みました。1年生は算数「かたちづくり」と生活「リースづくり」で、子どもたちは自分のペースで道具や学習コーナーを活用し、学び方を選びながら活動しました。3年生は、算数「円と球」と理科「豆電球に明かりをつけよう」で、子どもたちが試行錯誤しながらも自分のペースで自己解決していく姿が見られました。教師が一方向的に指示を出さず、子どもたちが自分で考える時間を尊重することで、自己解決力の高まりを実感しました。



授業研究会後の上智大学 教授の奈須正裕先生のご講演では、「教師としての姿勢」について深く考えさせられました。参加者は自分の授業観を見直し、子どもたちにとってより良い学びの環境を整えようという意識を新たにしました。

【授業者のA教諭より】

授業を通じて、子どもたちが単元の流れを把握し、見通しを持つことの大切さを実感しました。これまでは子どもたちから「次の授業は何をやるの？」と聞かれることが多く、授業が細切れになりがちでしたが、単元の初めに全体の流れを示すことで、子どもたちが学習計画を立てながら主体的に学ぶ姿が見られるようになりました。また、今回作成した「学習カード」には、特別支援教育の視点を取り入れ、特別支援学級の先生方とも協議しました。すべての子どもにとって学びやすい内容を目指したこの取り組みは、どの学年や授業でも共通の視点として役立つと感じています。

【参加された先生方の声】

- ・1年生の子どもたちは皆、活動に熱中していました。それぞれが自律的に活動する姿が素晴らしかったです。その姿から、学びを楽しむ環境づくりの大切さを改めて実感しました。
- ・理科の授業では、ある子が試行錯誤を繰り返した末に自己解決へとたどり着き、「そういうことかぁ！」という声とともに納得した表情を見せました。参観していた私は、思わず「よく頑張ったね」と声をかけてしまったほどです。このように、慌てずじっくりと学びに向き合える学習環境の良さを改めて感じました。
- ・奈須先生のご講演では、「まずは教師自身がしっかりと学ぶことが大切」という言葉が心に響きました。「授業づくりは料理と同じ」という例えは特に印象深く、自分の取り組みを振り返るきっかけとなりました。これまではさまざまな教育法の良い部分を組み合わせようとしていましたが、まずは自分自身がそれを試し、学び、実践することが何より重要だと気付かされました。教師としての学びの姿勢を改め、さらに深めていきたいと思えます。

梓川中学校 「地域とともに歩む」ことに挑戦！



今年度、「リーディングスクール・アソシエイト校」として、グランドデザインに「地域とともに歩む」ことを掲げ歩み出している梓川中学校。3年生は、総合的な学習の時間を利用して、高齢者宅を4～6人のグループに分かれ2回訪問しました。先日、訪問した高齢者の方から学校に次のような手紙が届きました。

先日はお手紙を頂いてありがとうございました。楽しく拝見させて頂きました。秋色いよいよ深く実りの秋がやって参りました。此度は、地域学習の為に私の家を訪問して下さいましてありがとうございました。…お若い五名の可愛らしい皆さんが来て下さってとても嬉しく感動しました。…皆さんは高校受験が待っていますよね。試験が終わってゆっくりする時間が出来たら、又皆さんとお逢いして料理をすとか楽しい事をしたいなと思います。いかが？では出来ます事を楽しみにお体を大切にどうぞお元気で学校生活を楽しんで下さいませ。…（一部抜粋）

担任の先生から手紙のことを聞いた5名の生徒は、手紙をくださった方の家を再び訪問しました。高齢者の方は大変喜び、生徒たちと楽しい時間を過ごしたそうです。地域の高齢者の方の思いに寄り添いそれに応えようとした生徒たちの姿は、「地域とともに歩む」ことにより、地域の方に元気と温かな思いを届けられるという「活動の意義」をまさに見いだした姿でした。



3学年では、高齢者宅の訪問後、自分たちがさらに追究したいことを個々に調べまとめています。あるクラスでは「高齢者の方の家にいき、近くにあまり民家がないことから、災害の時にどうやって避難できるか気になり、梓川地区の避難場所や避難経路について調べている」「訪問した方の家のまわりには田んぼが多く、自分の家の周りにも田んぼが多い。その田んぼで働いている方々を見ると高齢者ばかりだ。もっと若い人が農業に就くにはどうしたらよいか調べている」など、一人一人が気になっていることを追究しています。「私の住む梓川」に思いを巡らす機会になった高齢者の方との出会い。その出会いから子どもたちがどんな探究の学びを積み上げたかそのまとめが楽しみです。

SDGsの視点から地域を見つめる活動をみんなで一歩ずつ

1年生は、総合的な学習の時間で「SDGsを知ろう・気づこう・楽しもう」と活動を続けています。現在、達成目標「4 質の高い教育をみんなに」「11 住み続けられるまちづくりを」などを意識しながら、「地域の学校梓川小6年生の中学校参観」に向けて、各クラスが中学校を紹介する動画づくりを行っています。

あるクラスでは、「中学生の学習の様子を紹介しよう」というテーマで、「ドレミの歌」に合わせて班ごと「歌詞」をつくり、動画制作を進めています。「ミ」を担当した班では、みかんをつくるために新聞紙をオレンジ色に塗り、「みかんを食べる暇があったら勉強しよう」という歌とともに「みかん」を動画に登場させる予定です。担任の藤原先生は「回を重ねるごとに先輩らしい自分を見せたいという思いが強くなったらしく、子どもたちは“中学校は楽しい所だと紹介したい”と自分たちで言うようになり、楽しみながら動画づくりをしています」と話されました。

また、他のクラスでは、「中学校生活の様子を紹介しよう」というテーマで、班ごとタブレットを使い動画を撮影していました。中学校の授業風景を撮影している班では、個性豊かな中学の先生方の特徴をとらえた先生役の生徒が、班の仲間と楽しそうな授業風景を創り出していました。担任でもあり学年主任でもある妹尾先生は、次のように話されます。



「学校に来たくなる“楽しい学校”にしたいという思いを、学年の先生方や生徒に話しています。何か活動するたびに生徒に問いかけ共に考えながら、みんなで活動する機会を大切にしています。今回の動画づくりのように、『アイデアを出し合い、試行錯誤しながらみんなでやると楽しい』と思う経験を一つ一つ積み上げ、今後も子どもたちに任せるところはどんどんらせていきたいです」

SDGsの活動を柱に「地域とともに」を意識しながらみんなで活動を積み上げている1年生です。